

2018年5月吉日  
 学校法人いいづな学園事務局

## 2018年度 学校評価のまとめ ～ グリーン・ヒルズ ～

### 1. 本年度の学校評価への取り組み

いいづな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、本年度より学校評価に取り組むこととした。また、学校関係者の思いや要望、教職員の思いや要望を的確に把握するためにも学校評価システムの構築に取り組んだ。

#### 学校評価の流れ

2018年12月	保護者アンケートの実施
2019年 2月	保護者アンケートを受けての自己評価
2019年 3月	保護者に保護者アンケート結果を報告 評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施
	評価方法:保護者・自己評価を受けての意見聞き取り及びアンケート調査
2019年3月	理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告
2019年 4月	保護者会で外部関係者評価の説明

### 2. 自己評価の結果について

保護者アンケートについては、プラス評価が微増しているものの例年と同じく評価が大きく分かれる結果となった。考察の詳細については、自己評価結果参照。

### 3. 外部関係者評価の結果について

評価を依頼した。両氏ともに、保護者アンケートを反映した評価となっている。

今年度の評価者は、「①地域から1名」及び「②学校教育活動に協力して頂いた方1名」に依頼した。

両氏ともに、保護者アンケートを反映した評価となっている。活動報告を行い、聞き取り調査を行う中で、飯綱地区での活動について高い評価を頂き、地道な取り組みが功を奏したと感じた。

### 4. 来年度への課題

今年度の目標としてきた「プロジェクト学習について丁寧な指導を行うとともに、自ら学ぶ姿勢作りに努める」という点に関して、プロジェクト学習についての保護者アンケート結果及び内部評価が伸びたことから、ある程度の改善が行われたと考える。これは、今年度行ってきた職員研修の成果と考えられる。

来年度は、この成果を繋げるために、基礎学力について丁寧な指導を行い、「自ら学ぶ姿勢」が身につくようにサポートしていく。

また、地域における活動を評価して頂いたので、地域に根差した教育活動を継続する。

## 2018年度 グリーン・ヒルズ評価シート

2018年度グリーン・ヒルズの学校評価は以下のとおりとなりました。

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

※ 評価段階 : A > B > C > D

項 目		評 価				
		児童 生徒	保護者	内 部	外 部	
教育 目標 の 達成 具合	1	先生は、子どもの学習に対する自律性を確立できる教育を行ったと評価できる。		B+	B+	B
	2	先生は子どもたちが助け合い、お互いのことを考えられる関係性の確立を達成したと評価できる。		B+	B+	B
教育 課程 へ の 満 足 度	3	グリーン・ヒルズは、子どもたちが学習意欲を満足できる学習と活動を提供していると評価できる。		B	B	B
	4	グリーン・ヒルズは、子どもたち自ら学習したいと思える活動を提供していると評価できる。	B+	B+	B	B
	5	グリーン・ヒルズでは、子どもたちが担任や友人との信頼関係が構築されていると評価できる。	B+	B+	B+	B+
	6	グリーン・ヒルズは、子どもたちが満足する学校生活を提供していると評価できる。	B	B+	B	B+
保護 者 の 意 見	<p>•もっと自由な遊びの時間や、今よりさらに自らの意思決定により行動できるカリキュラムを望みます。認可校であることの難しさは承知の上で、欧米や一部日本の学校でも成果や実績が報告されているのでエビデンスは得られていると思う。</p> <p>•学校スタッフ間での意思疎通、学校としての理念や目指す方向性など基本的価値観を共有してほしい。</p> <p>•自分に自信をつけて目標を達成する喜びを得ることを指導してほしい。大変だったけど、やり切れたと感じる先に得たものは大きな自信になると思う。ハードルが高い目標でも、心折れそうな時に学校と家庭で連携して支え目標を達成させてあげられる学習ができればよい。</p> <p>•学年があがるほど子ども達は自分の思いや気持ちを伝えることを遠慮しがちになってしまうと思う。大人が汲み取って対話をして引き出して欲しい。学校や大人たちに色々な思いを持っている子たちがいます。</p>					
内 部 評 価	<p>•プロジェクト、基礎学習については、全体的に肯定的評価が増加しているが、個々の保護者の方の評価には大きな開きがある。個々のテーマを決める段階で、一人ひとりへの対応を丁寧にしていく努力が必要である。</p> <p>•小学校の「リンゴ園プロジェクト」には、自然とのかかわりだけでなく、地域の協力や販売など社会的側面も含めて高評価が定着してきている。反面、個人プロジェクトや中学校のプロジェクトについては、テーマの絞り込みや教科との関連、活動のねらいや内容、達成度などまだ十分といえない。</p> <p>•子どもたち自ら学習したいと思える活動をどのように準備し、子どもの学習意欲を引き出していか、課題である。</p> <p>•職員研修を通して、相互の理解と情報の共有をはかり、教職員の集団としての力をレベルアップしていきたい。</p>					
外 部 評 価 の 意 見	<p>リンゴのプロジェクトは農作物を作るだけでなく、食べてくれる人まで届ける「販売」も体験していて、とても良い学びにつながっていると思います。その学びからの基礎学習の向上についてもまだ改善される余地がありより良く伸びていく可能性がたくさんあるということを感じました。</p> <p>地域のつながり、地域交流も含めて、地域に根ざした学校になってもらいたいと思います。</p> <p>校外活動の様子を排煙し、有意義な学校生活を感じます。</p> <p>重点目標に関しましては、子ども達自身が自覚して活動されていると思います。</p> <p>こどもの元気な姿が印象的です。</p>					
来 年 度 の 課 題	<p>•子どもや保護者、教職員の限りある労力の配分計画が必要。</p> <p>•自然体験活動からプロジェクト、基礎学習、自治活動へのひろがり年間計画の中に位置づけていく必要がある。</p>					
<p><b>【次年度の重点目標】</b>  <b>「自然体験活動を重視する中で、プロジェクト学習や基礎学習の向上をはかる」</b></p>						